

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービス UNICO NEXT博多		2025年 4月 4日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		運動の際はすぐ隣の屋外施設を利用するなどしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウン用にテントを設置している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		運営MTGを月に一回行い、全スタッフの視点で業務改善に努めている。また、朝礼時に毎回前日の振り返りを行い改善に努めている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者機関からの評価を受ける代わりに、本社職員を事業所に派遣して評価を行う内部監査制度を年2回実施。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年に一回の全社員研修、月に一回の教室内研修が行われている。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		週替わりでワークショップを実施。会議を通して企画し、企画書を元に職員間で話し合って実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日朝礼を必ず実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		翌営業日に前日の振り返りを必ず実施している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に児童発達支援管理責任者が、お子さんに関する職員からの聞き取りを行ったうえで参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎を行っていないため、行事や下校時刻の確認等を学校を通じて行うことはないが、状況に応じてSSWや学校担任を通じて情報交換を行ったり、担当者会議を実施するなどして連携してお子さんを支援している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			該当する利用者がおらず前例がないため実現できていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		事業所が所属する商業施設での行事を通して、地域住民や近隣中学校などとスポーツをするなどの交流機会は設けている。	

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時でのお伝えだけでなく、利用者には必ず電子連絡帳でその日の様子を詳細にお伝えしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		事業所内の年2回の避難訓練のみならず、所属している商業施設における数か月ごとの避難訓練にも参加している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		対象児童に関しては、連携医療機関と事前に対応を決めたうえで受け入れを行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス UNICO NEXT博多			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60名	(回答者数)	28名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様が主体となった多様な活動プログラム	面談などを通してお子様から聞き取った内容を元に、計画書を作成し、職員間で検討の上、週替わりのワークショップや個別の外出支援を実施しています。	チェックリストを用いたワークショップの準備を行うとともに、全職員でワークショップ、外出支援の振り返りを行うことにより、その都度改善点を見つけ、次の活動プログラムへと活かします。
2	お子様が気持ちを受け止められていると実感し安心して通えるような居場所づくり	定期的な研修を通してコーチングをベースとした関りを学び、実践しています。また、日々の支援の振り返りを必ず行い、次の支援内容に反映させています。	他事業所を交えての事例共有、事例検討を通して職員一人ひとりが支援技術を向上していけるように図ります。
3	日々の支援内容に関する保護者様との密な連携	電子連絡帳を通して日々のお子様の様子だけでなく、どのような狙いをもってどのように支援したのかを、場合によっては活動中の様子を映した写真も用いてお知らせしています。	保護者様との連携がより円滑に行えるように、お子様の状況や保護者様からのご希望に合わせてより積極的に電話や対面での相談を行います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちのニーズに合わせた環境の確保	中高生も含めた幅広い年齢のお子さんが安心して過ごせるようお子さん同士の距離感や音の環境には配慮していましたが、体を使った気持ちの発散などの環境設定を行うことまでには配慮が至っておりませんでした。	事業所内での活動にとどまらず、状況に応じて公園やグラウンドなどの事業所外での活動ができるように、お子様へのご提案を行います。
2	専門性のある支援をより実感していただける保護者様との連携	専門的支援実施計画書の説明のみにとどまっており、当事業所で行っている療育内容との繋がりのご説明が十分でないことがありました。	当事業所での療育内容をベースとした専門的支援実施計画書に関するご説明を面談やモニタリングの際により詳しくご説明します。

3	事業所の状況や取り組みなどの保護者様へのご案内の向上	事故後の安全対策の検討や非常時に備えた対策会議、避難訓練を実施し事業所の通信などで配信はしておりますが、保護者様に安心していただけるようなご説明が十分でないことがありました。	事故や事業所での取り組みなど、現状や今後の見通し、保護者様への依頼などをより詳しくわかりやすくお伝えし、安心していただけるようなご説明、周知の対応をしていきます。
---	----------------------------	---	---